

**令和4年度
事務事業点検評価結果報告書
令和3年度実施事業**

蕨市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	事務事業点検評価の基本方針	1
1	目 的	
2	事務事業点検評価の対象及び方法	
3	事務事業点検評価対象事業一覧	2
III	事務事業点検評価の結果	3
IV	今後の取り組みについて	3
	令和4年度 事務事業点検評価シート	4
1	学びあい高めあう学校教育の充実	
1	教育内容の充実	
1	自ら学び自ら考える児童・生徒の育成	4
2	蔵らしい魅力ある教育活動の展開	5
4	学校給食の充実	6
5	特別支援教育の充実	7
6	教職員の指導力の向上と人材の確保	8
7	国際理解教育の充実	9
3	地域に根ざした教育の展開	
1	家庭・学校・地域の連携	10
4	家庭教育における意識の向上	11
2	生涯学習を支える社会教育の充実	
1	学習環境と学習機会の充実	
2	多様な学習機会の提供	12
4	図書館サービスの充実	13
6	家庭教育の支援	14
3	青少年の活動機会などの充実	
1	青少年の活動機会の充実	15
2	自然体験活動の充実	16
4	芸術・文化活動の振興	
2	芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実	17
5	歴史・文化の保存と活用	
2	歴史民俗資料館における事業の充実	19
6	人権・平和意識の高揚	
3	市民の平和意識の高揚	20
3	どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実	
1	スポーツ・レクリエーション活動の推進	
2	多様なスポーツ・レクリエーション機会の充実	21
2	スポーツ・レクリエーション推進体制の充実	
2	スポーツ団体の支援と地域の人材活用	22

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

この報告書は、同法の規定に基づき、蕨市教育委員会が行った事務事業点検評価の結果をまとめたものです。

II 事務事業点検評価の基本方針

1 目的

蕨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進と教育目標の達成に資するとともに、その結果に関する報告書を議会へ報告し公表することで、市民への説明責任を果たし、より効率的で市民に信頼される公正で開かれた教育行政を推進することを目的としています。

2 事務事業点検評価の対象及び方法

蕨市教育行政の点検評価では、令和2年度からの5年間を計画期間とする第2次蕨市教育振興基本計画の「施策の展開・主な取り組み」の中から19の事業を選定し、令和3年度に実施した事業の取り組み状況及び成果、課題、今後の取り組みを踏まえ、実施しました。

なお、この事務事業点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する方など、外部の方々に、施策についての評価をいただくとともに、さまざまなご意見、ご助言をいただきました。

ご意見、ご助言をいただいた方々は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属等（現職等）
佐藤 一子	東京大学名誉教授
平田 毅	蕨市PTA連合会会長

事務事業点検評価対象事業一覧

基本目標	施策		事業 番号	事業名	
1 学びあい高めあう 学校教育の充実	1 教育内容の充実	1 自ら学び自ら考える 児童・生徒の育成	1	学校図書館教育支援員事業	
		2 魅力的魅力ある 教育活動の展開	2	少人数学級推進事業	
		4 学校給食の充実	3	食育の推進事業	
		5 特別支援教育の充実	4	特別支援員配置事業	
		6 教職員の指導力の向上と 人材の確保	5	教育センター教職員研修事業	
		7 国際理解教育の充実	6	外国語教育等推進事業	
	3 地域に根ざした教育の展開	1 家庭・学校・地域の連携	7	学校応援団事業	
		4 家庭教育における 意識の向上	8	アウトメディア推進事業	
2 生涯学習を支える 社会教育の充実	1 学習環境と学習機会の充実	2 多様な学習機会の提供	9	地区生涯学習フェスティバル事業	
		4 図書館サービスの充実	10	図書資料の貸出(予約)事業	
		6 家庭教育の支援	11	家庭教育学級事業	
	3 青少年の活動機会 などの充実	1 青少年の活動機会の充実	12	わらび学校土曜塾推進事業	
		2 自然体験活動の充実	13	信濃わらび山荘管理運営事業	
	4 芸術・文化活動の振興	2 芸術・文化活動の発表と 鑑賞機会の充実	14	蕨市公募美術展覧会事業	
			15	音楽によるまちづくり事業 (蕨市民音楽祭)	
	5 歴史・文化の保存と活用	2 歴史民俗資料館における 事業の充実	16	特別展等開催事業	
	6 人権・平和意識の高揚	3 市民の平和意識の高揚	17	平和事業	
	3 どこでもだれもが 親しめる生涯 スポーツの充実	1 スポーツ・レクリエーション 活動の推進	2 多様なスポーツ・レクリ エーション機会の充実	18	スポーツ・レクリエーション推進事業
		2 スポーツ・レクリエーション 推進体制の充実	2 スポーツ団体の支援と 地域の人材活用	19	スポーツ・レクリエーション 団体支援事業

Ⅲ 事務事業点検評価の結果

評価につきましては、各施策の目標が「達成されている」をA、「どちらかというと達成されている」をB、「どちらかというと達成されていない」をC、「達成されていない」をDとする4段階の評価で行いました。

全19事業のうち外部委員評価は、下表のとおり、A評価が14事業、B評価が5事業となり、教育委員会が外部委員の評価に先立って行った担当課評価と、ほぼ同様の評価結果となりました。

なお、外部委員評価では、目標達成に向けて、今後も各事業の改善や充実に取り組み、より積極的に施策を推進・発展させるよう求める意見が多く見られました。

基本目標 施策	担当課評価				外部委員評価			
	A	B	C	D	A	B	C	D
1 学びあい高めあう 学校教育の充実	8	0	0	0	7	1	0	0
1 教育内容の充実	6	0	0	0	6	0	0	0
3 地域に根ざした教育の展開	2	0	0	0	1	1	0	0
2 生涯学習を支える 社会教育の充実	6	3	0	0	6	3	0	0
1 学習環境と学習機会の充実	2	1	0	0	2	1	0	0
3 青少年の活動機会 などの充実	0	2	0	0	0	2	0	0
4 芸術・文化活動の振興	2	0	0	0	2	0	0	0
5 歴史・文化の保存と活用	1	0	0	0	1	0	0	0
6 人権・平和意識の高揚	1	0	0	0	1	0	0	0
3 どこでもだれもが親しめる 生涯スポーツの充実	1	1	0	0	1	1	0	0
1 スポーツ・レクリエーション 活動の推進	1	0	0	0	1	0	0	0
2 スポーツ・レクリエーション 推進体制の充実	0	1	0	0	0	1	0	0
合計	15	4	0	0	14	5	0	0

Ⅳ 今後の取り組みについて

蕨市教育委員会では、今回の外部評価でいただいたご意見、ご助言を事業の改善に生かしながら、『生きる力を育み ともに学び 未来を拓く蕨の教育』の推進に取り組んでいきます。

また、評価方法について見直しを図るなど、より分かりやすく的確に市民への説明責任を果たしていくことができるよう努めてまいります。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	1	事業名	学校図書館教育支援員事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	1 自ら学び自ら考える児童・生徒の育成

事業の内容	学区内の小・中学校を巡回し、司書教諭や図書ボランティア等と連携をしながら、図書に関する専門的な知識を基に学校図書館教育を支援する（図書の選書・学校図書館の整備・学校図書館を活用した授業の支援）。
-------	---

事業の対象	蕨市立小・中学校
-------	----------

事業の目的・目指すべき姿	学校図書館教育の充実を図るため、図書の選定・学校図書館の整備・学校図書館を活用した授業の支援を行う。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

支援員の業務内容は、図書室の整備・選書、読書活動推進への企画・授業等について、司書教諭と連携を図りながら協力し、学校図書館教育の支援を行うことである。
 支援員を配置し教職員と連携することで、図書室の環境改善や読書推進啓発が可能となり、図書室の利用促進が図られた。
 また、市立図書館の子ども読書活動推進計画事業の一環である小・中学生向けのブックリストを活用するなど、児童・生徒の読書活動推進に寄与するなど、多くの成果を上げることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
1校当たりの活動日数（日）	37.5	62.5	62.5	62.5
児童・生徒1人当たりの貸出冊数（冊）	14.6	15.2	18.1	18.0
1校当たりの事業費（円）	283,000	407,961	428,942	446,000

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	1,500,000	2,749,610	2,959,416	3,130,000
	人件費	1,330,000	1,330,000	1,330,000	1,330,000
	合計	2,830,000	4,079,610	4,289,416	4,460,000

残されている課題・今後の取り組みについて

平成25年度に始まった本事業は順次採用枠を拡大しているが、支援員の志願者の確保が厳しい状況である。有資格者が応募者の条件とされていることにも関連があると考えられる。
 今後も、近隣市の状況を把握しながら、応募条件等の見直しの検討が必要である。
 現在は、2校に1名ずつ配置しており、支援員が常駐している状況ではない。1校当たりの活動日数や勤務時間等の検討を行うとともに、新規で採用された方と継続して勤務している方との連携を図る等、図書室の環境を充実させるための研修や、司書教諭と連携を図りながら課題の一つでも改善していきたいと考えている。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	学校図書館の活用は子供たちの自発的学習を支える基本である。現在2校に1名配置の学校図書支援員を可能な限り増員して授業と密着した図書利用の活発化を促し、市立図書館とも連携した読書推進活動を日常的に支える役割を果たしていただきたい。／支援の効果が出ており活動日数が増えている。コロナ禍では図書室の利用が控えられていたが、現在は通常通りに活動されているとのことである。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	2	事業名	少人数学級推進事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1	学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1	教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	2	楽しい魅力ある教育活動の展開

事業の内容	市費により教員を採用し、小学校第4～6学年における35人程度学級を実施する。
事業の対象	小学校第4～6学年のうち、県の基準による学級編制を行った場合35人を超える学級
事業の目的・目指すべき姿	小学校の学級編制の人数を35人程度以下とし、学級編制を少人数化することにより、学級担任の目が行き届いたきめ細かな教育指導を通して教育の質の向上させるとともに、業務の負担軽減を図る。

取り組みにおける成果・効果について	
<p>事業開始から12年が経過し、本事業は市全体で定着している。学級担任の目が行き届くという点から児童への学習指導、生活指導の効果が高くなるため、事業の成果も大きい。平成30年度からは、教育センター主任指導員が巡回指導を行い、指導力向上を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着（特に、算数の基礎学力の定着）など様々な場面で、個に応じたきめ細かな学習指導ができ、改善や向上、定着が見られた。 ・体験活動や発言機会等で児童が活躍する場を多く設定することができた。その過程で、個のよさを認め、励ますことができた。このことにより、児童の自己肯定感を高め、学習意欲を引き出すことができた。 ・当該学年の学校評価に係る児童アンケート結果の経年比較からは、「授業の分かりやすさ」「自主的な取組への支援」「教育相談」の項目において、前年度を上回る満足度が見られた。35人程度学級により、教員が学級の児童一人一人をきめ細やかに見ることができ、児童も教師からの指導・支援を実感していることが明らかになった。 ・標準編制の学級数と比較して、教員の事務処理の時間が短縮され、連絡帳、ノート、作品の点検と評価、教材研究や授業準備等に費やすことができた。その結果、保護者との連携による指導や支援を行うことができた。 	

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み*）
35人程度実施学級数（3～6学年学級数合計）	71	70	69	51
35人程度学級実施率（%） （市費実施学級数6）	100	100	100	100
1学級当たりの事業費（円）	459,057	357,544	335,976	385,471

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	29,283,049	21,718,113	19,872,324	16,349,000
	人件費	3,310,000	3,310,000	3,310,000	3,310,000
	合計	32,593,049	25,028,113	23,182,324	19,659,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>義務標準法の改正により、令和3年度より35人学級対象学年が1年生～2年生まで拡大され、令和7年度にかけて順次対象学年が拡大される。（令和4年度は、1年生～3年生が35人の標準編制）令和5年度以降の本市の少人数学級推進事業の在り方について研究を進める必要がある。本事業の有効性を一層高めるためには、優れた教員を該当校に配置することが肝要であるが、埼玉県南部地区では臨時的任用者の不足が課題である。少人数学級編制には、基本的に臨時的に任用教員を充てることになるため、適切な人材を確保するとともに、計画的な研修と、指導力の向上に努め学級担任の質の保証を図る必要がある。教員志望者への周知については、市のホームページへの掲載や教員免許を取得できる大学に対する募集要項やポスターの送付を引き続き行っていく。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>小学校全学年の少人数学級の実現に向けて、蕨市が独自の施策を打ち出してきたことは高く評価される。しかし教員志望自体が減っている状況の下で、臨時的な教員の任用については困難も伴う。研修の重要性はもちろん、学級運営の経験を交流し、学校レベルで教員にとって働きやすい職場をめざす努力もおこなえるようさらに教育現場の意識向上が求められる。／とても良い取り組みであると思います。課題と掲げている優秀な教師の確保、育成が大事であると同様に思います。</p>

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	3	事業名	食育の推進事業
		担当部署	学校給食センター

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	4 学校給食の充実

事業の内容	栄養士による食に関する指導の実施、及び市内の農産物生産者により生産された地場産物を活用した給食の提供。
-------	---

事業の対象	市内全小・中学校の児童生徒
-------	---------------

事業の目的・目指すべき姿	給食の献立を作成する栄養士が学校を訪問し、児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導を学級活動及び給食時間に実施する。 また、蕨市のような住宅密集地の市内で野菜が生産されていることを身近に感じることで、食生活が食に関わる人々の活動によって支えられていることについて理解を深めるとともに、丹精込めて育てられた食材に感謝して、残さず食べようとする気持ちを育む。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

栄養指導については児童・生徒の発達段階に応じた栄養指導を実施しており、健康的な食習慣の形成に寄与している。また、食育への関心を高めようと平成25年度より「学校給食のメニュー作りにチャレンジ!」と題して、児童生徒が自ら考案したアイディア料理を募集し、給食の献立に採用する取り組みを実施しており、応募数は年々増加傾向にある。

地場産野菜は、蕨農産物直売所の方々の協力により、平成18年度から学校給食での提供が始まり、じゃがいも、玉葱などの野菜を多く取り入れている。また、給食には毎年たくさんの旬の野菜を使っていることを周知するとともに、(令和3年)7月には地元で収穫される野菜を使用した「わらび野菜カレー」をメニューに加えるなど、ふるさとの味を紹介している。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	
---------------	---	--------	--

参考指標	令和元年度(実績)	令和2年度(実績)	令和3年度(実績)	令和4年度(見込み)
学校訪問栄養指導の回数	25	1	24	25
地場産物を活用した給食献立の提供日数	32	40	44	46
1日1人当たりの平均給食残滓量(g)	27.1	30.8	32.4	30.0

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	272,859	518,088	525,137	521,960
	人件費	3,431,000	1,988,000	3,525,000	3,525,000
	合計	3,703,859	2,506,088	4,050,137	4,046,960

残されている課題・今後の取り組みについて

子供たちが将来にわたって健康に生活していけるようにするためには、子供たちに対する食に関する指導を充実し、望ましい食習慣の形成を促すことが重要である。今後も栄養バランス等に配慮した食事を習慣的にとることの必要性について、指導案の充実を図りながら計画的・継続的な指導を実施していく必要がある。(令和2年度の栄養指導は新型コロナの緊急事態宣言と重なり未実施だが、一中だけは実施している。)

地場産野菜については、生産者の高齢化や後継者不足により全体の収穫量は減少傾向にあるが、今後も安定して地場産野菜を活用できるよう、生産者には計画段階から参加してもらい、学校給食への理解・協力を求めていきたい。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	栄養士という専門家の指導、地場産野菜農家の協力など、学校給食を通じて食育が推進されることは、単に好き嫌いのレベルではなく、食を支える人々や社会の課題を知る上で有意義な学びの機会である。小学校、中学校の段階に応じて生徒の関心を高めるうえで、SDGsの課題にも結び付くよう食品ロスや食の自給率など、社会のあり方に目を向けるきっかけづくりを意識して食育をさらに視野を広げて推進していくことを期待したい。/ 地元の野菜を活用するなど身近に感じれる取り組みであると感じるとともに、一つ進んだ食育が出来ていると思います。一方で、農産者の数量減少などに対する対応について何か別の対応できていればなお良いと思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	4	事業名	特別支援員配置事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	5 特別支援教育の充実

事業の内容	市費により特別支援教育支援員を採用し、特別な支援を必要とする児童生徒が通常の学級に在籍する学校に配置する。
-------	---

事業の対象	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒
-------	---------------------------

事業の目的・目指すべき姿	各学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

小・中学校において、特別な支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にある。特別支援教育支援員は、特に小学校では、低学年に配置することで、授業中の学習支援だけでなく、休み時間の児童観察や給食時の配膳支援、清掃指導の支援など、児童生徒の基本的な生活習慣の確立や事故の防止に、支援員の補助が今や不可欠である。また、担任だけでは気付くことができない、児童生徒一人一人のわずかな状態の変化に気付いたり、早期対応が必要な細かな部分にも手を差し伸べるなど、特別支援員を配置することにより、個のニーズに適した、きめ細かな学習指導や安全確保等の充実が図られており、現在の教育現場で不可欠な個別の指導・支援が可能となっている。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
要支援児童・生徒数(人)	136	148	137	125
対象者1人当たりの支援員の数(人)	0.07	0.06	0.07	0.08
要支援児童・生徒数1人当たりの経費(円)	55,183	53,864	58,996	66,411

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	6,175,000	6,641,936	6,752,492	6,971,320
	人件費	1,330,000	1,330,000	1,330,000	1,330,000
	合計	7,505,000	7,971,936	8,082,492	8,301,320

残されている課題・今後の取り組みについて

年度当初に支援員を対象とした研修会を実施し、勤務する上での服務規律等の指導を行っている。しかし、個のニーズが異なっていることや、教室から飛び出してしまう子に対して、支援員が一人で対応する場面もあり、判断に困る場面も少なくない。支援員が児童生徒のために、よりよい支援を行うことができるよう事例研修や、特別支援教育の内容など、支援員対象の研修を実施することで、各学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	市費で特別支援員を配置し、個々のニーズに応じたきめ細かい支援を行っていることは多様な子供たちへの学習支援として重要である。ニーズの多様性、状況による変化などにも対応し得るように研修の充実を図るとともに、学級における子供たちの相互理解をはかるうえでも担任、保護者とのコミュニケーションも必要である。／特に重要な取り組みだと思えます。誰もが平等に授業を受けることができる体制を作ることが子供にとっても良い環境であると考えます。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	5	事業名	教育センター教職員研修事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	6 教職員の指導力の向上と人材の確保

事業の内容	教育センターにおいて、計画的・継続的な教職員の研修を実施する。
事業の対象	蕨市立小・中学校教職員
事業の目的・目指すべき姿	教育センターにおいて、計画的・継続的な研修を実施することにより、教職員一人一人の資質・指導力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市教育センターを開設し6年が経過した。適応指導教室（日々草学級）や日本語指導特別支援教室が使用していない時間を活用し、教職員のみならず、さわやか相談員、ALT等の研修を開催することができた。令和3年度にも、緊急事態宣言が発令される中で、開催方法の変更等を行いながら、感染対策を講じつつ集合型での研修会やオンライン型の研修会を併せながら、教職員研修会を開催した。教育センターにおいて、計画的・継続的な教職員等の研修を実施したことで、一人一人の資質・指導力の向上を図ることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
年間研修実施回数	94	80	89	80
教職員等の年間研修参加延べ人数	1,270	1,126	1,299	1,200
研修1回当たりの事業費	178,096	217,780	191,877	215,650

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	15,500,000	16,181,378	15,836,061	16,011,000
	人件費	1,241,000	1,241,000	1,241,000	1,241,000
	合計	16,741,000	17,422,378	17,077,061	17,252,000

残されている課題・今後の取り組みについて

小・中学校ともに導入されたICT機器を活用し授業が行われている。令和3年度は、緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から教員を集めての研修会を計画通りに進めることができない状況であったが、同時双方向型のソフトを使用するなど、形態を工夫しながら、研修を行ってきた。今後も、状況を見極めながら計画の見直しを適宜行い、形態を工夫しながら教職員一人一人の資質・指導力の向上を図っていく必要がある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>コロナ禍のもとでのICT機器導入をはじめ、困難な環境の変容に対応するためにも教職員、指導員の指導力量の向上と現場の課題解決の創意性を高めるなど、教育センターによる体系的な研修は重要性を増している。気候変動による猛暑対策や登下校の安全確保など、児童・生徒を守るために教員が配慮すべき課題は山積している。多様な領域の専門家のコメントにも考慮しながら単に経験年数や教科に応じた研修にとどまらず、課題解決的視点をもって研修を計画することも求められていると思われる。／教職員のレベル維持向上においては特に重要だと思います。特にデジタルの変化、コロナ禍における取組においては更なる進化を目指すべく、取り進めていただきたいです。</p>

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	6	事業名	外国語教育等推進事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	7 国際理解教育の充実

事業の内容	市費によるALT（外国語指導助手）の小・中学校全校配置、及び中学校2・3年生を対象とした英語4技能テスト（GTEC）の公費負担での実施。
-------	--

事業の対象	市内小・中学校児童・生徒
-------	--------------

事業の目的・目指すべき姿	市費により、ALT（外国語指導助手）を採用するとともに、小・中学校へ配置し、外国語及び国際理解教育を推進する。また、中学校2・3年生を対象に、教職員研修、GIGAスクール端末を活用した外国語学習等を組み合わせた英語4技能テスト（GTEC）を公費負担で実施し、蕨市の中学生の外国語活用能力の向上を図る。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

ALT（外国語指導助手）については、今年度も優秀な人材の確保ができています。また月1回、市教委主催の全ALTを対象とした研修会や、学期に1～2回の学校訪問等を通じて、配置校との連携も図ることができた。ALTについては、授業以外にも給食や清掃活動、クラブ活動など、様々な場面で児童生徒との交流を図っているほか、特に中学校（第二中、東中）においては、姉妹都市であるアメリカのエルドラド郡の中・高校生とオンラインでの国際交流における支援等にも関わるなど、国際理解教育の推進に大きな役割を果たしている。

また、令和3年度より、市内中学校2・3年生を対象として、英語4技能テスト（GTEC）を公費負担で実施し、蕨市の中学生の外国語活用能力を把握することができた。結果としては大変良好であり、教員研修においては、テストで得られた客観的なデータの分析等を通して、自校の生徒の外国語活用能力を把握するとともに、今後の指導改善に向けた研修を実施できた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
支援児童・生徒数	3,582	3,385	3,675	3,470
ALT1人当たりの支援児童生徒数	511.7	338.5	367.5	347.0
支援児童・生徒数1人当たりの経費(円)	7,286	10,908	11,450	13,012

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	25,074,929	35,901,866	41,029,884	44,103,000
	人件費	1,022,000	1,022,000	1,050,000	1,050,000
	合計	26,096,929	36,923,866	42,079,884	45,153,000

残されている課題・今後の取り組みについて

令和3年度は、市のホームページを通しての募集に加え、オンラインによる面接も実施するなど、募集に関する工夫を図り、遠隔地の応募者も採用することができるようにしたことで、指導力のあるALTを確保することができた。今後も継続的に優秀なALT確保に努めていく。

小学校及び中学校において新学習指導要領に基づく指導内容や指導方法が改められたことで、ALTを活用した、外国語による、よりリアルなコミュニケーションの必要性が高まっている。教員がALTとの効果的なチーム・ティーチングを行えるよう、今後も引き続き支援が必要である。さらに英語4技能テストを通して得られた情報の活用や、昨年度から実施している、エルドラド郡の中・高校生との国際交流等を通して、子供たちの外国語活用能力の向上や国際理解教育の推進を図っていく。

外部委員評価	評価結果	A	評価コメント
			グローバル化する現代社会で単に教科としての外国語にとどまらず、社会的コミュニケーション手段として外国語を習得するうえで、ALTの採用は有用性の高い方策である。アメリカの中・高校生とのオンライン交流の体験は国際理解への関心を広げる上でも有意義である。すべての中学校で国際交流の機会を広げること、また英語を話すアジア諸国の在住者などを知る機会を通じて多文化共生の体験的理解を深めるよう国際理解教育の充実を期待したい。／国際化に向けた取り組みとして先進的な取り組みだと思えます。エルドラドのとの取り組みについては、リモートを活用した取り組みとして、ぜひ継続発展させていきたいです。言語だけでなく他文化理解においても一緒に取り組めるようなものがあっても良いのではないかと思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	7	事業名	学校応援団事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	3 地域に根ざした教育の展開
	施策の展開・主な取り組み	1 家庭・学校・地域の連携

事業の内容	家庭・地域社会と協力した、各校における「学校応援団」組織による取り組みを実施する。
-------	---

事業の対象	各学校（児童・生徒）及び学校に関わる家庭・地域社会の方々
-------	------------------------------

事業の目的・目指すべき姿	学校・家庭・地域社会が一体となって取り組みを推進し、学校の活性化と家庭や地域の教育力の向上を図る。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

蕨市では県の学校応援団事業に先駆け、学校ボランティア制度を取り入れ18年目を迎えた。各学校の学校応援団コーディネーターを中心に活動の充実・発展に努めている。現在では市内全小・中学校で学校応援団が周知されていることで、多くの保護者の協力を得ており、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、活動内容の精査を行い、可能な範囲で実施をした。

具体的な活動内容については、教育環境の整備や児童・生徒の安全確保をはじめ、学習活動や体験活動、学校ファームへの支援等であり、コロナ禍において人数を制限するなどの対応を行い実施している。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
延べ事業数（件）	45	20	24	30
各校応援団人数（人）	927	705	775	800
1人当たりの事業費（円）	1,077	1,392.1	1266.8	1,313

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	18,360	1,400	1,750	70,000
	人件費	980,000	980,000	980,000	980,000
	合計	998,360	981,400	981,750	1,050,000

残されている課題・今後の取り組みについて

ここ数年は、各校での学校応援団コーディネーターをPTA役員等をお願いしている傾向にある。学校応援団の調整等について、PTA関係の方をお願いするなど、コーディネーターの方への負担が大きくなるように努めている。

保護者や地域コミュニティ等多くの方にご理解、ご協力をいただいております。コーディネーターの趣旨を理解していただくとともに、研修や情報交換が行えるような場を設定して、負担の軽減を図って行く必要がある。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、応援団人数を制限しているため、学校と地域、家庭とのつながりが切れないように、情報発信を継続するとともに、国のガイドラインも考慮しつつ、実施する必要がある。

外部委員評価	評価結果	
	A	学校応援団は学校と地域が連携し、児童・生徒の多様な経験をサポートしており、家族以外の多世代と交流するうえでも重要な役割を果たしている。他方で保護者の多忙な実態からボランティアとして関わる住民との連携は簡単ではない。学校・PTAが主体となって運営することが基本になるとしても、図書館・公民館・体育系団体などのグループ・ボランティア活動とも何らかの連携が図れるよう、教育委員会レベルでも学社連携にもとづく情報ネットワークの形成など、学校レベルを超えたサポートのあり方も検討課題と言える。／調理実習のサポート、読み聞かせの授業、安全安心パトロールへの参加、花壇の整備、図書サポート、応援団事業などのボランティアについてはもっと進化発展させて欲しいです。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	8	事業名	アウトメディア推進事業
		担当部署	学校教育課（生涯学習スポーツ課）

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	3 地域に根ざした教育の展開
	施策の展開・主な取り組み	4 家庭教育における意識の向上

事業の内容	学校、家庭、地域の方々が連携しながらアウトメディアの取り組みを進めるために、学校関係者や各団体関係者、地域の方々が集まり活動実践報告や講演を行うアウトメディア推進大会や、小学生を対象にした将棋大会の開催、アウトメディア指導員による出前講座を実施する。
-------	---

事業の対象	アウトメディア推進大会…学校関係者、各団体関係者、市民 小学生将棋大会…蕨市内小学生 出前講座（アウトメディア指導員による）
-------	--

事業の目的・目指すべき姿	子供たちの健やかな成長のために、学校、家庭、地域の方々と連携しながら、今求められている電子メディアとの上手なかかわり方の取り組みを進める。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について	
<p>平成23年度のアウトメディア宣言制定から、毎年、アウトメディア推進大会を実施しており、学校、家庭、地域の方々が連携しながらアウトメディアの取り組みを啓発している。さらに小学生将棋大会は、児童に対するアウトメディア推進の一環として実施している。また、児童・生徒が主体となり平成28年度に策定した「小・中学生の携帯電話・スマートフォンに関するルール」を啓発するための取り組みでは、推進大会において平成29年度より毎年1校ずつ発表している。</p> <p>アウトメディア推進大会は、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応が継続しており公式YouTubeによる配信での開催とし、「宣言」のサブテーマを策定し発表した。小学生将棋大会は中止とした。</p> <p>コロナ禍において、令和2年度より、蕨市アウトメディア指導員を活用し、学校での「出前講座」を実施する取り組みを行っており、令和3年度は、北小学校5～6年生を対象に実施した。令和3年度実績より、参考指標に入れて評価を行う。</p>	

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
事業数（回）	2	代替事業 1	3	3
参加者数（人） <small>（推進大会+将棋大会+出前）</small>	184 (100+84)	代替事業 231	345 (148+0+197)	250 (110+40+100)
参加者1人当たりの事業費（円）	12,674	0	6,691	9,713

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	131,486	0	58,350	178,332
	人件費	2,190,000	0	2,250,000	2,250,000
	合計	2,321,486	0	2,308,350	2,428,332

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>アウトメディアに関連するアウトメディア推進大会や小学生将棋大会は、アウトメディア推進の中核となる事業である。新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応をしながら、各事業を実施するとともに、小・中学校への啓発を継続していくことが必要である。</p> <p>さらに、子供を取り巻くメディア環境は大きく変化しており、小・中学校においても一人一台端末が整備され、それらを活用して学習することを求めている。そのため、令和3年度にはサブタイトル「健やかな未来へつなぐための上手なメディアとのつき合い方」を付けた。令和4年度は、メディアの利点を活用しながら、さらなる市民の健康増進を図るべく取組内容等の検討を重ねる。</p> <p>また、蕨市アウトメディア指導員を活用した、「出前講座」等を継続していくために、指導員の研修内容の見直しを行う必要がある。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	<p>アウトメディア推進事業は市のオリジナルな事業であり、児童・生徒の気づきを促す有意義な方策である。他方でICTの必須性という環境変化の下で、オンラインの活用、ICTを活用した野外体験やボランティア活動、高齢者層のICT習得への若者による支援など、ICT能力を習得した「アフター」の諸活動との関連が問われる状況も生まれている。あらためて青少年とメディアをテーマに「アウト」として弊害に気づく機会とともに、「アフター」の活用の多様性を探求するなど、今までの事業推進の成果をふまえて今後の課題を検討する必要がある。／アウトメディアという考え方が少し時代に沿っていないように感じています。むしろ適正に付き合っていくことが大事になっているし、さらに次のステップの取り組み方が必要になっていると思います。</p>

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	9	事業名	地区生涯学習フェスティバル事業
		担当部署	公民館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	2 多様な学習機会の提供

事業の内容	公民館を利用している団体・クラブを中心として、地域の小中学校、高齢者クラブなど地域団体と共に、日頃の活動の成果発表や作品展示などを行う他、地区ごとに特色ある催しを実施することにより幅広い世代に生涯学習の推進を図る機会を提供する。
-------	--

事業の対象	生涯学習・地域団体及び市民
-------	---------------

事業の目的・目指すべき姿	生涯学習フェスティバルは公民館で活動する利用団体やクラブの成果発表の場であり、活動のモチベーションとなっている。更に、コンサートや模擬店、講座などを組み合わせることにより、団体間での交流の促進や、来館する地域住民との交流が図られ、公民館の認知度向上や、団体やクラブを知るきっかけとなり、新規参加促進に役立っている。総じて地域の生涯学習推進のための大きな役割を担っている事業である。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

令和2年度に続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染防止のため各地区において中止となった。各地区での中止決定は実行委員にて会議やアンケート実施などによって検討した結果である。各地区で中止としたものの、それぞれの館においては、作品展示を実施したり、フェスティバルで実施していたコンサートなどのイベントをフェスティバルとしてではなく、別の日程で公民館事業として工夫しながら実施した。その中で、代替事業として地域の小学生の作品を展示したところ週末には写真を撮る多くの家族連れで賑わったなど、新しい取り組みを行った館もあり、それぞれの地区で一定の成果をあげている。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	—
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
協力団体数（件）	340	0	0	234
延べ来館者数（人）	16,296	0	0	7,347
1人当たりの事業費（円）	286	0	0	583

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	735,000	0	0	630,000
	人件費	3,932,500	1,715,500	1,460,000	3,650,000
	合計	4,667,500	1,715,500	1,460,000	4,280,000

残されている課題・今後の取り組みについて

通常年のフェスティバルは多くの人を動員し、賑わうことで交流を図ってきたが、コロナ禍で大人数が集まる事が望ましくない状況であり、そのため令和2年、3年と連続で中止となった。そうした中で、コロナ禍で解散してしまった団体等もあり、元の賑わいを取り戻すことも課題であるが、コロナ禍から日常生活の再開に進む中で、フェスティバルも飲食などは中止するなど、感染対策をした上での再開を検討している。

また、ネットを利用したオンライン講座など、公民館に集まらなくても参加できる取り組み方法についても取り組むべき課題となっている。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	生涯学習フェスティバルは、公民館を利用する団体・グループが学習成果を発表し交流して互いにつながるという公民館のあり方を象徴しており、コロナ禍を乗り越えて再開が待たれている事業である。しかしコロナの終息が簡単には見込めない以上、事業の形を変えて維持していく工夫も求められる。オンラインでなくとも学校応援団や図書館などと連携した「発信」の多様化・他機関との連携など、新たなつながり形成の機会ととらえたい。／公民館としての在り方として現在あるべき姿が問われていると思います。何か新たな取り組みを始めていただきたいと思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	10	事業名	図書資料の貸出（予約）事業
		担当部署	図書館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	4 図書館サービスの充実

事業の内容	図書資料等の貸出・予約、県内公立図書館ネットワークによる相互貸借制度の活用
-------	---------------------------------------

事業の対象	市内に在住・在勤・在学する者のほか、川口市、戸田市、草加市及びさいたま市に在住する者
-------	--

事業の目的・目指すべき姿	<p>[事業の目的] 利用者の多様なニーズに応え、教養の向上、レクリエーションおよび日常生活に役立つ資料などを幅広く収集し、提供する。</p> <p>[目指すべき姿] 高度化、多様化する情報について、図書資料をより多く収集することにより、利用者の教育と文化の発展に寄与する。</p>
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言等が発出されたものの、臨時休館をすることなく感染対策の徹底を図りながら通常開館できた。さらに蕨市が舞台の女子サッカー漫画「さよなら私のクラマー」の特設コーナーが大変盛況であったこともあり、年間実利用者数と年間貸出件数につき前年度比大幅増を実現できた。

また、中学生・高校生のいわゆるヤングアダルト（YA）世代の読書活動推進の一環として、蕨高校図書委員に協力いただき、現役高校生の目線で本を選び、同世代に向けた推薦文を添えおすすすめ本コーナーを設置した。この取り組みは、より多くの中高生が関心をもって本に触れてもらうことを目的としており、蕨高校図書委員おすすすめ本コーナーを設置したことで、YA世代の読書を通じた心の成長の後押しの一助となった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
年間実利用者数（人）	9,720	7,695	9,016	9,500
年間貸出件数（件）	338,861	279,765	381,693	400,000
年間予約件数（件）	24,788	39,642	37,975	38,000

決算額の状況	年 度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	30,617,605	34,221,114	36,661,488	44,511,000
	人件費	44,459,000	39,010,000	41,050,000	41,050,000
	合 計	75,076,605	73,231,114	77,711,488	85,561,000

残されている課題・今後の取り組みについて

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた各種事業のうち、ボランティアの方々と連携して実施している児童向けの定例イベントをはじめ、隔月で開催している映画会、年初めの図書館寄席等、感染対策の徹底を図りながら、ほぼ通常どおり再開することができた。

今年度は、インターネット上で電子書籍の貸出を行うことにより、来館が困難な方に対して読書の機会を提供するとともに、非接触型のサービスによって感染症拡大を防止することを目的に、電子図書館サービスの導入を予定しており、コロナ禍における「新しい生活様式」に対応したサービスを推進していく。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	<p>コロナ禍の下で、利用者数、貸出件数の維持、増加をみたことは、図書館機能の独自性の発揮、感染対策の実施という点でも高く評価される。高校生のおすすすめ本コーナー設置もサービスの充実のみならず、若者の学習機会としても意義であり、さらなる拡大が期待される。電子図書の利用は来館が難しい人々への新たなサービスとして重要であるが、利用方法に慣れない人々の入門講座など、サービスに格差が生じないように配慮も求められる。／図書館をより利用しやすくなる取り組みを行い、さらに利用の推進をしていただきたいです。また現役高校生の意見を取り入れた推薦図書の導入、蕨高校生推薦図書コーナーなどオリジナルの取り組みが興味深いです。</p>

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	11	事業名	家庭教育学級事業
		担当部署	公民館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	6 家庭教育の支援

事業の内容	サロン方式や、リトミック、応急処置、工作、調理、クリスマス会などの季節イベントなどさまざまな事業を通して、乳幼児をもつ保護者の家庭教育の学習機会の充実を図る。
事業の対象	乳幼児をもつ親（2・3歳児の保護者と特定した講座が中心であるが、0～2歳児というように年齢の幅をもたせたもの、1歳児、2歳児と対象を絞ったものもある）
事業の目的・目指すべき姿	主に3才児以下の乳幼児をもつ保護者を対象に、子どもたちの健やかな成長と発達を促すため、家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力向上と、保護者同士の交流や情報交換ができる場として、子育て環境の充実を図ることを目的とする。

取り組みにおける成果・効果について

全公民館とも家庭教育学級は事業の柱に位置付けている。主に2・3歳児の保護者を対象にしたものが中心であるが、0歳から2歳など年齢を低くして対象を広げた講座も充実してきている。様々な分野の子育てに関する学習機会を提供することで、親としての育ちの一助とし、親子のふれあいの場となっている。また、自由に参加できる子育て広場なども参加者が増え充実してきている。

コロナ禍で他者とコミュニケーションが取れない日常が続くなか、乳幼児を持つ親同士が子育ての喜びや不安、悩みなどを共有し、孤立化を防ぐとともに情報交換、交流の場として寄与することができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
7館の家庭教育学級回数(回)	212	96	198	220
事業に参加した延べ人数(人)	4,304	1,564	2,799	4,250
参加者1人当たりの事業費(円)	880	952	1,272	954

決算額の状況	年 度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	1,761,785	591,149	1,619,544	1,919,358
	人件費	2,023,532	897,356	1,939,451	2,134,189
	合 計	3,785,317	1,488,505	3,558,995	4,053,547

残されている課題・今後の取り組みについて

2・3歳児においては、幼稚園のプレ保育等への参加が増え、公民館事業への参加者が減少傾向にある。共働き世帯、核家族化などの現代的な課題も参加者減少の原因の1つであると考えられるため、事業内容や開催方法、開催日の変更等が検討課題である。事業内容においては初めて参加される方も、スムーズに輪の中に入っていただけるよう、よりリラックスした空間を作る工夫も必要であると考えます。

また、児童館などの近隣の子育て施設の事業と対象年齢が重複していることもあり、参加者減少の解消を図るため、児童館と公民館の特性を生かした事業内容で合同事業の開催も検討している。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	長年社会教育の基本事業として、幼少期の子育てをきっかけに母親たちが地域でつながる体験をもつことを促す機会として重要な意義を持つ。コロナ禍で参加人数が減少するのはやむを得ないが、問題は本当に子育ての苦労を抱えている多くの保護者に寄り添う事業になりえているかという点である。共働き家庭やシングルの親たちが増大し、幼少期だけでなく小・中学校での適応に悩みをもつ親も少なくない。多様な親・子どもの実態、子どもの発達段階に即して、少人数対応も含めた事業のあり方を探ることも課題となっている。／利用者減の原因追及を進め、求められていることの真意について、ぜひとも対策として発展させていただきたいです。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	12	事業名	わらび学校土曜塾推進事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	3 青少年の活動機会などの充実
	施策の展開・主な取り組み	1 青少年の活動機会の充実

事業の内容	土曜日に小学校施設を使用し、子供たちの自主学習（宿題、課題等）の支援や、体験学習等を行う。運営は各小学校区に設置した実行委員会で行う。また、スタッフは元教員や大学生、地域の方が務める。
事業の対象	実施する小学校に在籍する3学年から6学年の児童 ※平成25年度は3小学校区（東・西・南小）、26年度から全7小学校区で実施
事業の目的・目指すべき姿	地域及び家庭が連携協力し、子供たちの自主学習及び体験学習等を通して学ぶ楽しさを教え、学習習慣の定着及び基礎学力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から4月からの開設を延期した。7月に全小学校区塾長で組織している「わらび学校土曜塾運営委員会」において実施方法の検討を行い、11月より順次、再開することができた。なお、本事業の実施に際し「わらび学校土曜塾 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル」に沿った運営を行うよう要請した。本事業は、行政・家庭・地域が連携協力し、子供を育む環境づくりを推進するためには効果的な事業であると考えているため、引き続き、関係機関と連携を図り実施してまいりたい。また、かつて学習アドバイザーを務めていた大学生が卒業後も勤めながら継続して本事業に携わっていただくなど、本事業を通して若い世代の力が地域に還元される仕組みが構築されつつあると感じている。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	—
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
開設日数（日）	142	0	53	135
参加登録者数（人）	161	87（予定）	61	132
スタッフ登録者数（人）	107	100	92	100

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	4,875,687	248,438	1,843,299	6,611,000
	人件費	1,387,000	1,349,000	1,650,000	1,800,000
	合計	6,262,687	1,597,438	3,493,299	8,411,000

残されている課題・今後の取り組みについて

コロナ禍の影響により約2年間、本事業を実施ができなかった中で、参加者が減少したため、開設日や募集方法について検討する必要がある。また、新型コロナウイルスによる影響が終息するまで、「わらび学校土曜塾 新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」に沿った運営が必要であるため、そのことが負担とならないように、引き続き細やかなサポートを行って実施してまいりたい。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	B	土曜日に学校で子供たちの自主的な学習を支援する事業であり、スタッフ層も多く、蕨市の放課後子供支援の一つとして有意義な事業である。しかしコロナ禍にあって従来通りの展開ができない事態にあり、参加登録者も限定される傾向にある。若手スタッフの提案を生かして、子どもたちの自主的な学習に働きかける方法を工夫するなど、事業本来の目的の実現を模索する時期といえる。／とても良い取り組みだと思います。コロナがあったので一時分断されていたと思いますが、ぜひとも蕨の学力向上のために地道な活動の継続をお願いしたいと思います。この事業についてもまだ正解がない取り組みだと思いますが、ぜひともいろんなチャレンジに取り組んでいただきたいと思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	13	事業名	信濃わらび山荘管理運営事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画 での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	3 青少年の活動機会などの充実
	施策の展開・主な取り組み	2 自然体験活動の充実

事業の内容	野外活動ができる施設の提供
事業の対象	青少年団体・一般市民及び市外の方
事業の目的・目指すべき姿	恵まれた自然環境の中で、集団宿泊による野外活動を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに、市民の憩いの場を提供し、健康の増進を図る。

取り組みにおける成果・効果について

長野県川上村は、八ヶ岳を望む恵まれた自然環境にある施設であるため、青少年が様々な体験を出来る活動の場として提供していたが、新型コロナウイルスの影響によって、令和2年度に引き続き青少年団体の予約が全てキャンセルとなった。
また、林間学校の利用が他の施設へと変わり、団体送迎バスの費用や高速道路料金の半額補助の実績がなかったため、決算額が大幅に減少した。
施設の利用率促進を図る目的で実施している「山菜まつり・川上村交流会」「親子レタス朝採り体験教室」「紅葉ツアー」についても、新型コロナウイルスの影響を鑑み、全て中止とした。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
開館日数（日）	205	145	145	205
利用延べ人数（人）	2,443	778	733	1,200
利用者1人当たりの事業費（円）	10,463	26,714	26,195	23,011

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	22,494,627	17,801,708	17,850,817	24,463,000
	人件費	3,066,000	2,982,000	1,350,000	3,150,000
	合計	25,560,627	20,783,708	19,200,817	27,613,000

残されている課題・今後の取り組みについて

これまでは、市内の5つの小学校（定員により北・南小は利用不可）で、信濃わらび山荘を「林間学校」の場として利用してきたが、全学校とも宿泊日数を変更（2泊→1泊）し、施設までの距離が近い他の施設を利用する事になったため、令和3年度より全ての小学校での利用がなくなった。（特別支援学級の自然体験教室のみ、信濃わらび山荘で引き続き実施予定。）
また、築30年以上経過した施設であり、施設設備が老朽化している状況であるため、今後の維持管理について検討が必要であり、本施設の在り方・方向性を検討していく転換期に入っていると考えている。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	信濃わらび山荘の老朽化とコロナ禍による利用困難という事情が重なり、市の教育資源としての活用のあり方を見直す時期に来ている。コロナ感染終息期に川上村との交流を維持・拡大することは有意義な方向性であり、長年の積み上げの活用が期待される。青少年・市民のニーズを適切に把握して長期的方針も含めて今後の検討に期待したい。／こういった施設、活動というものが時代に合っていないようになってきているように感じております。時代に見合った事業内容の転換が求められているように思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	14	事業名	蕨市公募美術展覧会事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2	生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	4	芸術・文化活動の振興
	施策の展開・主な取り組み	2	芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実

事業の内容	蕨市・蕨市教育委員会・蕨市文化協会が主催。応募作品について審査を行い、入選作品の展示を行う。なお、審査のうへ、優秀な作品には褒賞を行う（知事賞、市長賞、教育長賞、文化協会会長賞等）。また、招待作品（片品村や市内中学生の作品）の展示も行う。
事業の対象	作品の応募は、市民及び市内在勤在学者で16歳以上の者又は蕨市内の文化団体会員 展示期間中の観覧は自由（入場無料）
事業の目的・目指すべき姿	広く市民の芸術文化への理解と創造力の啓発を図り、豊かな人間性を養い、郷土文化の振興に寄与する。

取り組みにおける成果・効果について

「市民でつくる美術展覧会」の意識を醸成し、若年層への芸術文化の浸透を図るため、5部門（絵画・彫刻・工芸・写真・書道）による作品の公募を行い、「くるる」にて展覧会を開催し、優秀な作品には褒賞を行っている。令和2年度はコロナウイルスの影響により、絵画・彫刻・工芸の美術部門のみによる「美術市展」をオンラインで開催した。令和3年度は例年通りの5部門での展覧会形式で実施できたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会期等を縮小したほか、事前申込制を導入して開催した。出品者が多く集会する講評は実施を見送り、各部門による先生方のコメントを作品とともに映像で収め、その動画を蕨市YouTubeにて配信した。展覧会形式で開催したことで、来場者は満足した様子であり、会場の雰囲気は例年以上に和やかに感じた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
出品数	215	58	142	215
観覧者数	1,000	0	730	1,000
-	-	-	-	-

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	223,381	200,000	229,410	236,445
	人件費	1,053,000	985,500	1,012,500	1,012,500
	合計	1,276,381	1,185,500	1,241,910	1,248,945

残されている課題・今後の取り組みについて

令和3年度はコロナ禍の影響により、出品数は減少したが、多くの来場者があり、会場は活気に満ち溢れていた。本事業は市民の芸術文化の振興に寄与している事業であるため、委託先の文化協会と協力して、より魅力的な事業となるよう様々な取り組みをしていきたい。今後の課題は市民の創作意識を高められる工夫が必要であるほか、文化協会会員に高齢化がみられるため、会員の後進育成について検討が必要がある。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	市民参加型事業として定着しており、コロナ禍でも継続可能な事業と言える。オンライン開催も実験的な方法として今後も活用可能な試みである。しかし、広報や若手の参加などについては委託先の文化協会とも意見を交わしつつ、さらに多くの市民の関心を引く工夫、努力が必要であろう。公募、褒賞、参加型などの特徴を確認しつつ、次世代につながることを期待したい。／特にコミュニティの活性化、高齢者の活動、活躍の場としての取り組みとして継続して欲しいと思います。また、若年層を取り込むような活動も出てくればさらに活発になるように思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	15	事業名	音楽によるまちづくり事業（蕨市民音楽祭）
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	4 芸術・文化活動の振興
	施策の展開・主な取り組み	2 芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実

事業の内容	音楽によるまちづくり事業の中心的な位置づけとなる個別事業として、蕨市民音楽祭を開催する。市民が音楽に触れ合うことができる環境を提供し、地域の活性化や芸術文化の振興につなげていく。
事業の対象	市内外の方
事業の目的・目指すべき姿	音楽を通じた蕨市の芸術文化の振興とその推進を図るとともに、音楽により蕨のまちの魅力を発信することで賑わいを創出し、蕨市のイメージアップを図る。

取り組みにおける成果・効果について

平成29年度から、市内各所でプロアマ問わずにコンサートを実施することで、市民がさまざまな音楽を楽しむことができ、市内外より多くの方が集まることでの賑わいの創出を目的として開催している。令和2年度は開催時期をずらして3イベントを開催、令和3年度は緊急事態宣言が発令された中で、5イベントは出演者及び関係者のみの観覧として実施し、後日、蕨市YouTubeにて動画を配信した。残りの3イベントは翌年2月と3月に観客を入れて開催した。前半のイベントは動画配信となったが出演者からは「このような状況下でも予定通り開催してくれたことに感謝する。練習してきたことが披露できてうれしい。動画配信となったが他の出演者とのふれあいができた。」との感謝の声をいただき、後半のイベントでは「観客がいるライブは久しぶりだったが、観客がいるだけでテンションが上がったし、とても楽しかった。」との声をいただいた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
出演者数	612	45	242	363
参加者数	4,301	112	554	831
イベント数	21	3	8	12

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	2,700,000	1,887,149	2,611,526	2,700,000
	人件費	1,987,980	1,845,982	2,143,312	1,949,981
	合計	4,687,980	3,733,131	4,754,838	4,649,981

残されている課題・今後の取り組みについて

コロナウイルスの影響でこの2年間は動画配信を中心に本事業を実施してきたが、コロナウイルスの終息後も会場に来場できない方や記録として、今後も動画配信は継続していきたい。また、この動画配信の効果として、本事業の開催や出演を楽しみにしているとの声をいただいている。今後は、音楽に興味がない方や子供、障害のある方にも参加・観覧してもらえるような工夫を行っていききたいとの声が実行委員会からあがっている。本事業だけでなく、他のイベントや施設と連携を図り、音楽をツールとして、まちの賑わい創出と市民活動の活性化につながるような取り組みをしたい。今後について、一定の音楽ジャンルに捉われず、広く多くの市民の方に楽しんでもらえるような企画・運営に努めていくとともに、市外からの集客も得られるようなPR方法の検討を行ってまいりたい。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	蕨市の市民文化事業として活発に取り組みされており、コロナ禍の困難のもとでも工夫しながら今後への展開が期待されている。子供・若者をはじめ、市民が表現の主体となり、日常的な活動の積みあがりの成果が示されるプロセスが重要である。蕨市のまちづくりの一環となるよう、民営もふくめた教育・福祉・文化施設とのつながり、商店街の魅力発見、外国人の参加など、蕨市の社会教育のつながる力をきめ細かに発揮しつつ細部の設計がなされることを期待したい。／より広く参加できる方が多い、かつ蕨の持ち味である国際的な取り組みの一つとして多様化を推進できるような敷居が低い、楽しいイベントになるように進化させて欲しいです。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	16	事業名	特別展等開催事業
		担当部署	歴史民俗資料館

教育振興基本計画 での位置付け	基本目標	2	生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	5	歴史・文化の保存と活用
	施策の展開・主な取り組み	2	歴史民俗資料館における事業の充実

事業の内容	特別展として、蕨市や近隣市にゆかりのある芸術家の作品の紹介や、蕨市の歴史・文化に関する展覧会を開催するほか、小学生を対象とした体験講座等を実施する。
事業の対象	歴史民俗資料館及び歴史民俗資料館分館の来館者
事業の目的・目指すべき姿	魅力ある展覧会や講座等を開催することで、幅広い年齢層の市民の来館を促し、蕨市の歴史・文化に触れる機会の充実を図る。

取り組みにおける成果・効果について

第41回特別展「つだ なおこ-鉛筆幻想散歩-」（令和4年3/5～5/8）では、ファミリー層や若い世代の来館も多く見られたほか、小学生を対象に開催した鉛筆画のワークショップでは定員越えの応募があり、大盛況であった。また、オータムギャラリー「三学院指定文化財展」（令和3年10/30～12/19）では、貴重な文化財に触れていただく良い機会となった。生涯学習スポーツ課との共催により開催した、蕨市が舞台の女子サッカー漫画「さよなら私のクラマー」展（令和3年6/3～12/19）では、場面写真や貴重な台本などを展示、市内外から多くの来場者があり、大いに蕨市のPRが出来たと思われる。なお、R3年度の参考指標である利用者数及び1人当たりの事業費の大幅な増減については、「さよなら私のクラマー」展の長期開催に伴う来館者の増加によるものである。そのほか、小学生対象の体験講座については、参加人数を限定し、年間3期（計13講座）に分散して実施。各講座とも抽選となるほどの人気ぶりであった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
展覧会の開催数（回）	3	2	3	2
利用者数（人）	10,385	11,068	25,434	12,000
1人当たりの事業費（円）	253	212	90	205

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	1,623,600	1,370,600	1,263,900	1,436,270
	人件費	1,000,000	972,602	1,027,397	1,027,397
	合計	2,623,600	2,343,202	2,291,297	2,463,667

残されている課題・今後の取り組みについて

蕨市及び近隣市にゆかりのある芸術家やアマチュア作家等の人材発掘に力を入れていくほか、様々なジャンルをテーマにした魅力ある展覧会を企画していく。特別展については、令和3年度より「蕨市や近隣市にゆかりのある芸術家」の作品を紹介する展覧会と「蕨市の歴史・文化」に関する展覧会を隔年ごとに実施することにしており、令和4年度は歴史に焦点を当て、「塚越の歴史展（仮）」を開催予定である。

また、小学生対象の体験講座については、引き続き新規講座の開拓に努め、児童を魅了するような楽しい講座を企画し、更なる若年層の来館を目指していく。

なお、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、事業内容についても適宜検討していく必要がある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	歴史民俗資料館がいつそう市民に親しまれ、蕨市の歴史性・文化性に目を向ける事業として有意義であり、コロナ禍のもとでも十分な参加を得ていることは評価できる。ワークショップなど児童・生徒の関心を高める学習機会になっていることも重要である。市民や小・中・高校生の調べる力、表現する力を高める方向で新たな開催方法・学習方法の工夫を重ねていただきたい。／地域の歴史、文化を知ることとはとても大事な題材だと思います。個人的にはより深く知りたいたいと思っております。歴史と合わせて芸術との融合を図られている点も興味を促す良い展開だと思います。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	17	事業名	平和事業
		担当部署	公民館（歴史民俗資料館）

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	6 人権・平和意識の高揚
	施策の展開・主な取り組み	3 市民の平和意識の高揚

事業の内容	公民館や図書館、歴史民俗資料館など市内社会教育施設において平和事業（パネル展・平和コンサート・講演会・母子像清掃等）を開催することで、平和の尊さや戦争の悲劇を後世に伝えていく。
事業の対象	市民・施設利用者
事業の目的・目指すべき姿	戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える取り組みを進め、市民の平和を愛する心を育み、平和で豊かな社会を次の世代に引き継いでいくことを目的とする。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市は第二次世界大戦末期に3度にわたる空襲を受け、埼玉県下では熊谷市に次いで2番目に大きな被害を受けた歴史をもつことから、市を挙げて平和事業を行っており、市内各社会教育施設においても同事業を開催している。令和3年度は前年に引き続き新型コロナウイルス感染症により中止した事業もあったが、市内各公民館では地区コミュニティ等との共催で7月～8月にかけて『戦時中の写真パネル等の展示』や『市立第二中学生が描いた平和の紙芝居「蕨の成年式ものがたり」の講演』、さらにインターネット配信等も活用した『平和祈念コンサート』を実施した。また、歴史民俗資料館や市立図書館でも『平和祈念展』や『資料展示』を開催しており、1964年と昨年夏の過去2回開催された東京オリンピックに関する展示「蕨に聖火がやってきた！」は多数の来館者を集め、戦争の悲劇や平和の尊さについて考え次世代の平和意識の高揚を図ることにつながることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
開催数（回）	105	124	146	139
平和事業の延参加者数	3,344	1,295	1,793	2,715
平和事業に参加した市民の割合	4.46%	1.73%	2.39%	3.62%

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	40,078	4,490	41,676	211,801
	人件費	613,802	270,333	571,126	694,077
	合計	653,880	274,823	612,802	905,878

残されている課題・今後の取り組みについて

終戦から77年が過ぎ戦争を体験した世代が高齢となり、戦争体験を後世に伝えて行くことが難しくなっている。令和4年5月15日は沖縄県の本土復帰50周年にあたるが、引き続き戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるため、様々な方法で平和について情報発信していかなければならない。

また一方で、現在海外では「ロシアによるウクライナへの軍事侵攻」や経済問題や宗教文化の違いで様々な「地域紛争」「民族紛争」が起きている。インターネットが発達しテレビやSNS等でリアルタイムに簡単に情報を入手できる現代ではあるが、『平和事業』という観点から各世代にアプローチできるような事業を企画していくことが必要である。

新型コロナウイルス感染症により多くの市民が集まる形でのイベント開催が難しい中、感染対策を考慮した形式での開催を検討する。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	蕨市が市民の学習の自由を尊重しつつ、平和事業を積極的に推進している実績は高く評価される。展示にとどまらず、コンサート・演劇や講演会など平和学習の多様性もふまえて市民の平和への関心、特に若い世代の主體的な関わりを促すよう、開催方法の工夫をはかること、戦争体験者から次世代への継承事業に焦点を当てた企画など、他市にも学びつつ多様な参加形態を模索する必要がある。／ぜひとも継続していただきたい内容ですし、また特に現代における平和についても少しづつ変わっていると思います。特にウクライナ問題については、現代に生きている我々は真摯に受け止め、考え出さないといけない時期に差し掛かっていると思いますので、ぜひアップデートも踏まえて取り進めていただきたいです。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	18	事業名	スポーツ・レクリエーション推進事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	1 スポーツ・レクリエーション活動の推進
	施策の展開・主な取り組み	2 多様なスポーツ・レクリエーション機会の充実

事業の内容	温水プールの借上げ事業等を実施し、市民の健康増進、体力向上を図る。また、スポーツ協会への委託事業として、水泳大会、ロードレースを開催する。
-------	---

事業の対象	市民
-------	----

事業の目的・目指すべき姿	市民の健康増進・体力向上を図るため、だれもがスポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会の充実を図ることを目的とする。 運動・スポーツを週に1回以上の実施率向上を目指したい。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

コロナ禍で中止した大会等があった中で、温水プール借上事業については、感染対策を行いながら実施した。参加者はコロナ以前には及ばないが、徐々に増えている。

また、運動無関心層へのアプローチとして、スポーツ庁の「運動スポーツ習慣化促進事業」を開催した。蕨市の見どころやアニメのモデル地を巡る聖地巡礼ウォーキングマップの制作・提供や、そのマップを活用したウォーキング大会の開催、日常の家事の動きに合わせた動きを運動プログラムとして動画配信をするなど、コロナ禍においても心身の健康維持が図れる取り組みを実施した。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
市主催（共催）事業数	4	1	2	4
実施回数	102	48	107	102
参加者延べ数（人）	2,785	590	3,333	2,500

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	4,221,035	2,200,000	12,261,088	4,328,000
	人件費	5,037,000	4,899,000	5,175,000	5,175,000
	合計	9,258,035	7,099,000	17,436,088	9,503,000

残されている課題・今後の取り組みについて

コロナ禍の状況で、感染対策を講じながら、市民が安心して参加できる大会運営の工夫が必要である。民間温水プール借上については、事業の更なる拡充を検討していく。

さらに、各関連スポーツ・レクリエーション団体や市民体育館指定管理者と連携した事業を検討するほか、令和3年度に実施した運動スポーツ習慣化促進事業の継続実施についても検討していく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	コロナ禍のもとでも生活におけるスポーツの必要性、スポーツを求める市民の参加意欲は変わらないことが示されている。感染対策とともに熱中症対策、高齢者のけがなど、安全なスポーツ事業の遂行に向けて関係者の研修、当事者への基礎講座など、健康・医学とも連携しながらすべての人がスポーツを楽しむ条件の整備をはかっていただきたい。／市民が気軽に参加できるマラソン大会など貴重な取り組みだと思います。ぜひ継続していただきたい事業だと思います。もし他に可能性があるのであれば推進していただきたいです。

令和4年度 事務事業点検評価シート

事業番号	19	事業名	スポーツ・レクリエーション団体支援事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	2 スポーツ・レクリエーション推進体制の充実
	施策の展開・主な取り組み	2 スポーツ団体の支援と地域の人材活用

事業の内容	スポーツ協会への補助金交付及び、活動・運営に対しての支援を行う。
事業の対象	蕨市スポーツ協会
事業の目的・目指すべき姿	幅広い年代の市民が参加できるスポーツ・レクリエーション行事の実施及び各団体活動のいっそうの充実を図るため、必要な支援を行うもの。

取り組みにおける成果・効果について

スポーツ協会への補助金交付や事務局業務を担うことで、協会の活動支援を行っている。これにより、各競技団体及び地域5支部の活動や、年間を通じた各種スポーツ行事等により、市民に対してスポーツ・レクリエーションの機会を提供し、生涯スポーツの推進を図っている。

例年、スポーツ協会支部球技大会・秋季体育祭、市民ロードレース大会、スキー大会、水泳大会、スポーツフェアを催しているが、令和3年度はコロナ禍の影響で、支部球技大会（南町支部）のみの開催であった。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（見込み）
スポーツ協会主催（共催）事業数	12	0	1	14
参加者延べ数（人）	5,494	0	290	5,000
加盟団体数（支部含む）	28	28	28	28

決算額の状況	年度	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 決算額(円)	令和4年度 予算額(円)
	事業費	2,520,000	2,520,000	2,520,000	2,520,000
	人件費	3,796,000	3,692,000	3,900,000	3,900,000
	合計	6,316,000	6,212,000	6,420,000	6,420,000

残されている課題・今後の取り組みについて

スポーツの推進を図るため、各加盟団体が行うスポーツ教室等の充実とともに、公民館利用団体や、個人などに対して働きかけを行う。市民全体のスポーツ・レクリエーション振興に向けて、レクリエーション協会やスポーツ少年団などの連携をはじめ、指導者育成や更なるスポーツ・レクリエーション活動の機会提供を行うなど、今後も生涯スポーツ推進の中核を担っていきけるよう、支援していく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	スポーツ協会への支援・助成事業では、コロナ禍という未曾有の困難をどう乗り越えていくか、各団体の運営実態、競技方法と練習形態による課題も多様であると思われる。公民館のスポーツ・レクリエーション団体も含む市民スポーツの維持・発展と支援のあり方について検討が求められる。今後学校の部活のボランティア支援なども課題となる可能性もある。多様なスポーツ団体の意向、課題も踏まえつつ、団体の支援、研修、人材育成などの適正な支援と助成を行うことが期待される。／目的自体はとても良い取り組みだと思いますが、内容としては変化させていく時期に来ているものも多分にあると思います。ぜひ、この機会に見直せるものは見直して進化、発展させていただきたいです。